

税金の使い道

大田区立貝塚中学校 三年 柳 凌太



昔、といっても八年前ぐらいのことだが、入院したことがある。難病が見つかり、それが危険な状態であると分かったからだ。血小板減少性紫斑病といって、原因は不明だが、血液中の血小板が減少して出血しやすくなる病だ。通常の人の血小板の量は一マイクロリットル当たり十萬〜四十萬個である一方、自分はたったの五千個であった。これはまずいということですぐに大病院に入院させられた。自分は四人兄弟で家庭の経済状況はあまり良くなかった。入院中の食費、部屋代などが家族の負担になるのではないかと思った。そんな中、助けになったのは「医療費三割負担」だ。残りの七割は国民の皆が払う健康保険料から出で免除される。税金のありがたみをとて感じた。

このように、税金は困っている人の助けとなってくれる素晴らしいものだ。

しかし、そんな税金だが最近では岸田総理による増税が物議を醸している。現在、日本は不景気で物価もぐんぐん上がっている。それなのに賃金が上がっている気配はない。更に、それに加えて増税なんてことをしたら、人を助けるはずの税金が人を苦しめることになり本末転倒だと思

った。

現在するべきことは増税ではなく、税の使い道の見直しであると僕は思う。会計検査院によると、二十二年度の「税金の無駄遣い」は四百五十五億円であった。去年が二千八百億円だったのでかなり改善された。しかし、これが〇円でないのは悲しいことだと思う。国民が汗水垂らして働いて支払っている、いわば血税。ぜひとも有効利用してほしいものだ。他にも、政治家に支給される文書通信交通滞在費も問題だと思う。月額百万円が日割りになって支払われるように改正されたが、正直それは意味がない気がする。たとえ、使うつもりがなくても百万円が支払われるのだ。もはやボーナス。国のために使われた分だけ立て替えてもらうような形態にして、無駄な税金が使われないようにするべきだ。無駄になった分は、待機児童問題解決のために保育士の待遇を良くしたり、生活保護を受けられる人を増やしたりするのに使うと良いのではないかと思う。

税は教育費、衛生費、福祉費など様々なことに使われ、今日こうして生きていく上で必要不可欠なものだ。そして、いざというときに助けになってくれるものもある。それが逆に人々を苦しませるなんてことが起こらないように税が使われて欲しい。そのために自分ができることは政治に関心を持ち、選挙に行くことだと思う。政治に対する文句をただ言うだけではなく、自分の望むような政治をしてくれる人を選ぶのが大事なのだ。